

## 「布の力」～布というフィールドに幸せの種を蒔こう～ 近江商人屋敷でNO-REN展を開催

会 期：2010年7月6日(火)～8月1日(日)  
 会 場：外村宇兵衛邸、外村繁邸、中江準五郎邸、金堂まちなみ保存交流館  
 参加者：武川眞佐子、石井知沙、志知俊介、伊東良子、岩岡利都子、大高亨、  
 平岡美子、奈良平宣子、市川かおり、野々口悟、池端禎三、板東正、  
 北川陽子、神沢郁子、寺井洋介、中島俊市郎、今野文雄、村山福子、  
 山口道夫、福田笑子、滝口洋子、学生20名  
 イベント：7月10日(土)セミナー「布の力・フラッグアート」福井恵子氏  
 8月 1日(日)ワークショップ  
 「布遊び」近江の麻を使って奈良平宣子氏

2010年猛暑の中、緑がいっぱい広がり、白壁に強い日差しが眩しいまち並み「近江商人の里」のお屋敷で、約1ヶ月間の「のれん展」が無事終了しました。

150年の時を経た、広々とした住まいの、出入口は勿論のこと、通路や壁面、廊下、部屋の間仕切りなど、あちこちに、50数点の作品が下げられました。

加工は、クラシックな手染めや絞りにはじまり、現代のプリント手法などが主で、手織りや編み物、手芸もの、重ね仕立てや立体のコミカルな作品もありました。

それぞれが、日よけ・風除け・結界・視線避けの暖簾本来の機能は勿論のこと「布の力」の魅力ある発信を感じさせました。

真夏の、四方八方から来る風や強い光が、演出効果を増し、時間と色彩や形態の変化を目の当たりに楽しませてくれ、千余人の来場者がくぐりぬけた入り口の暖簾はすっかり、このお屋敷に溶け込んでいました。

広々した庭の吾妻屋からの眺めにも趣があり、働き物の近江商人を思わせる、大八車や「男衆」と書いた看板が並んでいて、この場所にもチョット灰汁のあるNO-RENがあったら……

学生作品は大胆さやカラフルさが今の暖簾・これからの暖簾を多少感じさせたが、発想は斬新だが、仕上げの粗末さや、型くずれが目立ったようです。

全体的には、屋内、屋外に関わらず長時間下げさらずに耐えられる素材・型を基本にデザインすべきと思います。

最終日の13名が参加したワークショップ「近江の麻で布遊び」は、近江の麻のはぎれを中心に、カラフルなテープ・サテンリボン・ナイロンチュールなどを、透明なネットに織り込んだり、編んだりしながら布を作ります。皆、黙々と、熱中!! 色や素材の組み合わせを楽しみながら、オリジナリティーあふれたバッグや、ランチョンマットができ、断熱シートを張るとペットボトルケースの出来上がり! 下に揺れるフリンジを結んで、素敵な仕上がりです!

布や糸を最後まで使い切る、近江商人の「もったいない」の精神を存分に活かしたワークショップでした。

村山 福子

「布の力」をテーマに昨年から勉強会、見学会を行ってきました。このNO-REN展に繋げるため、暖簾が生まれ育った歴史的背景や、作られ方使われ方の基礎知識などを学び、また暖簾が町並み作りに役立ったという岡山県真庭市の現地調査を行いました。布だからできたこと、布でしか表現できないことなど多くを学び、私たちテキスタイルデザインに関わるものとして何を発信できるのか。

人間讃歌、自然讃歌のメッセージをフラッグアートで表現されている福井恵子氏のセミナーは布の未来に大きな希望を持たせてくれました。布の力を信じて、幸せの種からたくさんの芽がでて、綺麗な花が咲くことを期待しています。

外村宇兵衛邸

NO-REN 展



中江準五郎邸



外村宇兵衛邸



金堂まちなみ保存交流館

